

1. 教育基本法との関連

教育基本法を踏まえた教科書になっているかどうか。

観点	内容と特色	該当箇所
1. 幅広い知識と教養を身につけ、豊かな心を育てる（教育基本法第一章第二条一）	● 日本および他国の文化や自然、将来の職業、平和や人権など、生徒の知的欲求に合致する題材を幅広く取り上げ、広く知識と教養を獲得できるようにし、生徒の感性に訴える物語を通して豊かな心を育むように配慮している。	全体
	● 異なる文化的背景をもった登場人物たちの友情や成長に触れることで、豊かな情操と道徳心を培うように配慮している。	全体
2. 自律的な学習者を育て、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う（教育基本法第一章第二条二）	● さまざまな工夫を凝らし、自律的な学習者を育てるように配慮している。 ・ 自ら目標を立て、試行錯誤しながら小さな課題に取り組み、思考・判断・表現して、はじめに立てた目標の達成を目指す単元構成 ・ 生徒の個性・創造性・自主性が発揮されるような言語活動 ・ 学習目標とプロセスの提示、活動のふり返りと自己評価ができる仕組み ・ 生徒が個別に参照し、自律的に活用できるデジタルコンテンツや資料	全体 QRコード / For Self-study / 資料
	● 将来の夢や憧れの人物を紹介する活動や、実際の働く人の取り組みや思いに触れる題材などを通して、個人の能力や創造力を伸ばすよう配慮している。また、生徒自身が個性を発揮しながら活動に取り組むことで、自己の能力や関心を将来の生活や職業と結びつけることができるように工夫している。	1年 Lesson 1, 2, 3, 4, 5, 7 2年 Lesson 2, 3, 6 3年 Lesson 7, 8
3. 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を尊重する態度を養う（教育基本法第一章第二条三）	● 教材においては、性別、国籍、人種などの区別なく、すべての人が協力して生活し、よりよい社会を構築する姿を、登場人物の配置、イラストや写真を用いて示すことにより、生徒が主体的に社会形成に参与する態度を育成できるように配慮している。	全体
	● 言語活動において、ペアやグループなどの形態を重視し、生徒同士が協力しながら友だちのさまざまな面を発見できる活動を通して、他を敬愛する心や互いに協力し合う態度を養えるように配慮している。	1年 Lesson 2, 7, 9 2年 Lesson 5, 6 / Reading Lesson 2 3年 Reading Lesson 2 / Further Reading 1
4. 自然を大切にすることを養う（教育基本法第一章第二条四）	● 自然科学、環境、防災などの題材を取り上げることで、自然界への関心を深め、生命を尊重し、自然を大切にすることを育むことができるように配慮している。	1年 Lesson 9 2年 Lesson 4 / Further Reading 1 3年 Lesson 7 / Reading Lesson 3
5. 伝統文化と他国を尊重する態度を養う（教育基本法第一章第二条五）	● 伝統文化や地域の行事など、日本の魅力を探究する題材や、それらを発信するための活動が用意されている。	1年 Lesson 5, 6, 8 / Reading Lesson 2 / Further Reading 1, 2 2年 Lesson 5, 7, 8 / Further Reading 2 3年 Lesson 4, 5 / Further Reading 2
	● 外国の生活や文化について学び、尊重する心を育む題材が用意されている。	

2. 教育課程および学習指導要領への対応

学習指導要領の教科の目標や内容を踏まえて編集上の配慮がされているか。

観点	内容と特色	該当箇所
1. 外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせた深い学びを実現することができる	● 各単元に配置された言語活動を通して、学習した内容を活用し、目的や場面、状況などに応じて、思考力・判断力・表現力を働かせながら深い学びを実現するように工夫している。	全体
	● ペアやグループ活動に重点を置くことで、コミュニケーションの際に相手を意識する力を育むことができるように工夫している。	全体
2. 聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動がバランスよく配置されている	● 各レッスンでは、4技能5領域にわたる言語活動がバランスよく配置されている。また、各レッスンとは別に、中核となる技能を系統的に養う独立した単元も配置されている。	全体
	● 技能と領域を示すアイコンが配されており、それにより各活動がどの技能や領域に焦点を当てているかが明確になっている。	全体
	● それぞれの教材は、1時間の授業が音声から文字へ、練習活動からコミュニケーション活動へと自然に移行するように活動が段階的に配列されている。	全体
3. コミュニケーションを図る資質・能力を育成することができる	● 全学年にわたり、言語材料が系統的に配列されている。	全体
	● 言語活動は適切に配置されており、単に「理解」と「表現」とどまらず、「伝え合うこと」と「双方向のコミュニケーション」も重視している。	全体
	● 各レッスンでは、知識と技能の習得を目指す活動が組み込まれており、基礎的で基本的な知識と技能を確実に身につけることができる。	Small Talk / Small Talk Plus / Take Action! Talk

4. 外国語の背景にある文化に対する理解を深めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 異なる文化的背景を持つ人物をメインキャラクターとして設定し、彼らの生活や考え方に触れることを通じて、互いを尊重し合うことと、多様な価値観を受け入れることの大切さを理解できるように配慮している。 	全体
	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育に資するように、地域のバランスを意識しながら外国の生活や文化を取り扱う題材を選定し、外国語の背景にある文化への理解を深めることができるように配慮している。 	1年 Lesson 6 など 2年 Lesson 7 など 3年 Lesson 4 など
5. 他者に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができる	<ul style="list-style-type: none"> 目的や場面、状況を設定し、思考力・判断力・表現力を働かせるペアワークやグループワークを積極的に配置し、相手を意識しながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するように配慮している。 	全体
	<ul style="list-style-type: none"> 相槌の打ち方や、発表で気をつけること、相手に理解しやすいように文をつなぐ方法など、コミュニケーションを行う際の工夫や留意点について扱い、生徒が他者を意識して活動に取り組めるように配慮している。 	Small Talk Plus / Tips for Small Talk / Role-play Sheet
6. 主体的に学びに向かう力を養うことができる	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と同世代のキャラクターを配し、実生活に基づいたストーリー展開や中学生の視点を反映した題材の選択により、生徒が主体的に学びに取り組むことができる。 	全体
	<ul style="list-style-type: none"> QRコードや学習者用デジタル教科書を活用することで、生徒は個別に音声や動画、発音のチェック、辞書機能などのリソースにアクセスでき、自学自習や感染症対策を含めた家庭学習など、さまざまな状況に合わせた多様な学びに対応することができる。 	QRコード / 学習者用デジタル教科書
	<ul style="list-style-type: none"> 目標の設定、活動への取り組み、ふり返りというサイクルの中で、生徒が主体的に学びに関わり、学習を自己調整する力を養うための工夫がされている。 	レッスン扉 / ふり返り / What Can I Do?
7. 英語の特徴や決まりに関する事項を理解して活用する技能を身につけることができる	<ul style="list-style-type: none"> 各レッスンに段階性を考慮して配置された文法事項と文構造は、文脈のある発話の中で提示され、練習活動や言語活動を通して、生きて働く知識や技能として習熟できるように配慮されている。 	全体
	<ul style="list-style-type: none"> レッスン外での活動を通じて、適宜既習事項をふり返り、理解を深めることができるように工夫されている。 	Language Focus
	<ul style="list-style-type: none"> 語彙は、受容語彙と発信語彙を意識しながら、文脈のある発話の中で提示され、練習活動や言語活動を通じて、習熟できるように配慮されている。 	My Dictionary / New Words / Word Bank / いろいろな単語
	<ul style="list-style-type: none"> 音声は、レッスンの中の英文から適宜取り出して、集中して学習し習得できるように工夫されている。 	脚注の♪ / Sounds
8. 目的・場面・状況に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする活動が設定されている	<ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって親しみやすく理解しやすい目的や場面、状況が設定されている。 	Scene / SETTING
	<ul style="list-style-type: none"> 「聞くこと」や「読むこと」のセクションでは、目的や場面、状況に応じて、必要な情報をつかむ活動や、情報を整理して概要や要点を捉える活動が効果的に組み込まれている。 	Goal Activity / Take Action! Listen, Read / Reading Lesson
	<ul style="list-style-type: none"> 目的や場面、状況に応じて、自分の考えを整理して伝える活動や、相手とやり取りしながら、自分の意見を形成し、伝え合う活動が適切に設定されている。 	Goal Activity / Project
9. 道徳教育との関連	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自分のできることを表現する活動を通じて、自己肯定感を高めることができる。 	全体
	<ul style="list-style-type: none"> 国際理解教育に資する題材や単元を設定することで、国際社会での平和を希求する心を育むことができる。 	全体
	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と同年代の多様な人種をメインキャラクターとして設定し、彼らの日常生活を題材として取り入れることにより、さまざまな価値観を受け入れ、いじめや差別のない社会への意識や人権意識を高めることができる。 	1年 Lesson 1, 5 など 2年 Project 1, Lesson 5 など 3年 Lesson 4, Project 3 など

3. 教科書の構成上の配慮と工夫

教科書の構成、教材の配列、分量は適切か。今日的な教育の課題への対応、指導計画と指導への配慮がされているか。

観点	内容と特色	該当箇所
1. 教科書の構成		
(1) レッソンの構成	<ul style="list-style-type: none"> 主な単元は、第1学年に9レッスン、第2学年に8レッスン、第3学年に8レッスンを配当し、それぞれのレッスン末には、ゴールとなるコミュニケーション活動を設定している。 	全体
	<ul style="list-style-type: none"> 各レッスンは「Part」と「Goal Activity」によって構成され、「Part」には言語材料と言語活動をバランスよく配置し、知識・技能と思考力・判断力・表現力を段階的に習得できるように工夫している。 	Part
	<ul style="list-style-type: none"> 「Goal Activity」は、レッスンごとに「読むこと」または「書くこと／話すこと」のコミュニケーション活動に取り組めるようになっているため、単元のまとまりとレッスンの構造が明確になっている。 	Goal Activity

(2) レッソンを支える教材	<ul style="list-style-type: none"> ● レッソンを支える教材は、下記の小単元をそれぞれの系統に従ってバランスよく配置している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「Take Action!」では、英語を使う必然性のある場面や状況で、聞いたり、話したり、読んだりする。 ・「Reading Lesson」では、文学作品や説明文、人物伝など、多様なジャンルの英文を読む。 ・「Project」は、各学年に3回設定され、複数の技能を統合して活用する活動に取り組むことで、総合的な英語力の習得を目指す。 	全体 Take Action! Reading Lesson Project
(3) デジタルコンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書のほぼ全てのページにQRコードを設置し、生徒がいつでもどこでも容易にアクセスできる。 ● 授業の予習や復習に役立つ題材の資料動画や本文アニメーション、生徒の個別ニーズに対応する文法の解説動画や発音チェックなど、多岐にわたるコンテンツを豊富に用意している。 	全体 QRコード / 学習者用デジタル教科書
(4) 学習を支える資料	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒がいつでも個別に参照できる資料を配置し、自律的な学習者を育成できるように工夫している。 <ul style="list-style-type: none"> ・「For Self-study」では、効果的な学び方についての情報を提供している。 ・「Language Focus」では、文法事項や文構造が使われた会話から、その意味や機能を理解し、整理できる情報を提供している。 ・巻末には、生徒の表現を支える「いろいろな単語」「Tips for Small Talk」や、学びをふり返る「What Can I Do?」など、多様な資料を用意している。 	全体 For Self-study Language Focus 資料
(5) 評価への対応	<ul style="list-style-type: none"> ● 巻末には、3年間または1年間を見通したCan-Doリストが用意されており、生徒が目指すべき目標と評価規準が明確かつ適切に設定されている。 ● 各レッスンや小単元では、ねらいやふり返りが具体的に示されており、生徒が各学年の目標を意識しながら、目標の設定、活動への取り組み、ふり返りという学びのサイクルを実現できるように工夫している。 	What Can I Do? Lesson 扉 / ふり返り
2. 配列・分量		
(1) 学習内容は生徒の発達段階に応じてわかりやすく適切に配列されている	<ul style="list-style-type: none"> ● 言語材料や言語活動は平易なものから複雑なものへ段階的に配列され、全体として系統が工夫されている。 ● 音声から文字、練習活動からコミュニケーション活動へと、授業がスムーズに流れるように活動を配列している。 ● 練習活動では、生徒が基礎的で基本的な内容を確実に身につけることを目標に、段階的かつスパイラル方式で知識と技能を習得できる。また、コミュニケーション活動では、目的や場面、状況を意識しながら、思考力・判断力・表現力を育成できる。 	全体 全体 全体
(2) 学習方法や授業展開が分かりやすい	<ul style="list-style-type: none"> ● 1ページ1時間の授業を想定した紙面構成、ねらいや場面設定、使いたい表現の提案、表や図などを用いて手順をわかりやすく提示した活動など、教師にも生徒にも使いやすい紙面になっている。 ● それぞれの活動では、既習事項を活用しながら、思考力・判断力・表現力を働かせ、ペアワークやグループワークを通じて対話的に学習できる。 ● 各レッスンでは、深い学びにつながる課題を設定し、生徒が主体的に考えや気持ちを表現できるようにしている。 ● コミュニケーション活動の終わりには、取り組みをふり返ることで、生徒自身が学びに主体的に関わり、学習を自己調整する力を育てられる。 	全体 全体 Lesson ふり返り
(3) 生徒の発達段階に即した適切な分量である	<ul style="list-style-type: none"> ● 取り扱っている教材は、生徒の発達段階を考慮した適切な分量である。 ● 練習活動やコミュニケーション活動など、ねらいの異なる活動については、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を確実に身につけるための十分な量が、それぞれ適切に配置されている。 ● 語彙は発信語彙と受容語彙の考え方が意識されており、発信語彙はくり返し何度も触れられるように工夫されている。 	全体 全体 全体
3. 今日的な教育の課題への対応		
(1) 主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> ● 題材は、考えや気持ちを引き出したり、感情に訴えたりするさまざまなものが配置され、生徒が主体的に題材に関わるように配慮している。また、それらの題材は、ペアワークやグループワークなどの対話的な言語活動を通じて、内容を深められるように工夫されている。 ● 生徒が自身の必要や関心に応じて参照できる資料が用意され、目標の設定、活動への取り組み、ふり返りという学びのサイクルの中でそれらを活用することで、主体的に学習に取り組む、自己調整する力を育てる工夫がされている。 	全体 全体

(2) カリキュラム・マネジメントへの配慮	● 学年を通して一貫した流れで指導できるようにすることで、目標や指導のプロセスが明確に示され、教員の経験に関わらず指導しやすい構成となっている。	全体
	● 他の教科と関連付けられた題材や、軸となる単元 (Lesson) と独立した別系統の単元 (Take Action! など) の二本立ての構成により、柔軟に教育課程や指導計画を作成することができる。	全体
	● 活動ごとに 5 領域と評価の 3 観点が明確に紐づけられており、巻末の Can-Do リストやレッスン扉の Lesson Preview、コミュニケーション活動後のふり返しなどを参照することで、体系的な指導計画とそれに基づいた評価を行いやすい構成になっている。	全体
(3) 他教科との関連	● 社会科、理科、技術・家庭科といった他の教科との関連性を持たせた題材や歌などを扱っており、CLIL や ESD の考え方に基づいた学習へと発展させることができる。	1 年 Lesson 7 2 年 Reading Lesson 3 3 年 Lesson 3, 6 Reading Lesson 1, 2, 3
(4) 地域・社会・家庭との連携	● 日本や地域を紹介するレッスンが設定されており、地域への愛着の心を育むことができる。	1 年 Lesson 8 2 年 Project 3
	● 生徒の作品を展示したり、それらを用いて発表したりすることで、地域交流や国際交流の活動を通して、生徒のコミュニケーション能力とグローバルな視野を育成できる。	Project
(5) 多様な学習環境への対応 (学習の習慣化、個別最適な学び)	● 言語材料や言語活動は、3 学年を通してスパイラルに配置しており、複式学級での指導にも配慮している。	全体
	● 練習活動、コミュニケーション活動、異文化理解を深めるための資料などに音声や映像を取り入れた教材を用意しており、指導者はこれらを活用してさまざまな指導を行うことができる。	QR コード / 学習者用デジタル教科書
	● 第 1 学年の「My Dictionary」や、全学年の巻末に配置した「いろいろな単語」は、自学自習等で積極的に活用し、個々の生徒の状況に合わせて語彙や表現を広げるなどして、個別最適な学びへとつなげることができる。	My Dictionary / 資料
(6) 小学校との接続の工夫	● 第 1 学年の「Starter」では、小学校で学習した内容を復習したり、既に身につけた力を確認したりすることで、小学校での学びと中学校での学びをスムーズに連携することができる。	1 年 Starter
	● 第 1 学年の Lesson 1～4 では、音から文字への橋渡しが丁寧な本文の構成になっており、文字を書く活動も、4 線やなぞり書きなど、小学校での学びを継続させるつくりになっている。	1 年 Lesson 1～4
(7) 高等学校との接続の工夫	● 読むための英文は、全体として十分な量を確保しつつ、第 1 学年から第 3 学年にかけて段階的に読解力が身につくように工夫されており、高等学校での長文読解につながるようになっている。	全体
	● 簡単なディスカッションができるように段階的に言語活動が配置されており、高等学校の論理表現につなげる工夫がされている。	Take Action! Talk / Goal Activity
	● 高等学校で求められる理解力や表現力の基礎を身につけるために、語彙を増やしたり、文法事項を体系的に理解したり、効果的な学習方法を学んだりすることができるよう、教科書内及び QR コードや学習者用デジタル教科書からさまざまな資料を参照することができる。	Reading Lesson / Further Reading / Language Focus QR コード / 学習者用デジタル教科書

4. 使用上の配慮・工夫

すべての人が学びやすく、教えやすい教科書であるための配慮がされているか。

観点	内容と特色	該当箇所
1. 学びやすさ・特別支援への配慮	● 専門家の校閲によるカラーユニバーサルデザインに配慮した紙面づくり、学習要素が定位置にあり、それぞれにねらいが明確な紙面構成、わかりやすい活動の内容・指示文など、特別支援が必要な生徒にも学習上の支障がないように配慮している。	全体
	● 大判 (A4 判) を採用し、イラストや写真が大きく扱われており見やすい。また、ユニバーサルデザインに配慮したフォントを使用している。	全体
2. 造本の工夫 (書き込み・評価への対応など)	● 印刷は鮮明で、見やすく、製本は堅牢であり、長期間の使用に耐えられる。	全体
	● 環境にやさしい用紙とインキを使用している。また、十分な大きさの書き込み欄が設けてあり、記入がしやすい。	全体
	● 小学校で学んだことをふり返るために第 1 学年の冒頭に配置されているコミュニケーション活動 (Starter) と絵辞典 (My Dictionary) は、紙の横幅を短くしてあり、Lesson 1 以降でもすばやく参照することができる。	1 年 Starter / My Dictionary

QR コードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。